



—快適に住み続けられるまちづくり— 発行：NPO世田谷桜丘まちづくり

～東日本大震災支援コンサート～

東日本大震災を支援するチャリティーコンサートが7月3日(日)に桜丘ホールで開催されました。

第1部は「祈り」をテーマに、被災地の一日も早い復興と被災された方々が少しでも気持ちが癒されるように、祈りを込めた曲が演奏されました。3曲のアベマリアやフォーレのシシリアーノなどギター、チェロの演奏が聴く人の心に迫ります。

そして第2部は「未来に向けて」と題して、日本人々が団結してこの困難を打開し明るい未来がひらけるように、『上を向いて歩こう』などを聴衆とともに歌って、被災地の人々を励ます気持ちを伝えました。演奏者は二期会の会員や元 NHK 交響楽団の団員など、第一線で活躍する方々で、今回のチャリティーの主旨に賛同し、ご協力いただきました。



併せて会場内では画壇で活躍する11名の作家の作品展示即売も開催され、特別価格での販売収益は義援金として寄付されました。最後に参加者全員で「ふるさと」を合唱してコンサートの幕を閉じました。

コンサートの座席整理券と絵画の売上金、および会場での寄付金を合わせて27万円が集まり、すべてを被災地に直接届く方法で寄付いたしました。皆様のご協力に感謝申し上げます。

- (寄付先) ①宮城県亘理町災害対策本部 ②宮城県山元町災害復興本部
③桜丘在住の元朝日新聞論説委員、高成田享さんが設立の「東日本大震災こども未来基金」

桜丘のニュース

7月、七夕飾りが夏の商店街に彩りを添えました

今年も地元商店街の参商会と協力して、商店街の夏の風物詩である七夕の飾り付けを行いました。NPO桜丘コミュニティサロンで毎週水曜日に開かれている“駄菓子屋さん”に集まる子供たちに、将来の夢などを短冊に託して書いてもらいました。また商店街のお店からも東北大震災の復興を願う声や、商店街の繁栄を期待する短冊が多数寄せられました。全長4メートルほどの竹に、これらたくさんの七夕飾りや短冊が飾り付けられて、駅前のアーチに2本、商店街の中に2本設置しました。通勤通学の行き帰りや買い物で商店街を訪れた人たちも歩みを止めて眺める姿が見られ、商店街のにぎわいに一役を果たしていました。



また、10月26日には桜丘コミュニティサロンの子どもまちづくりに参加する子どもたちと、桜丘児童館に集まる子どもたちが一緒になって、ハロウィーンが開催されました。子どもたちは思い思いの衣装を着て街を歩き、協力いただいたお店を回ってお菓子を貰い、商店街での楽しい時間を過ごしました。

11月からは、例年通り商店街の街路灯に小学校の児童が描いた絵を飾る「ペナントギャラリー」を開催しています。子どもや孫が描いた絵が、商店街のどこにあるかを探しながら買い物をして歩くという楽しみが増えることでしょう。このように NPO 世田谷桜丘まちづくりと参商会商店街はともに商店街が一層にぎやかになるように、また楽しく安全に買い物ができるような商店街づくり、快適に過ごし続けられるまちづくりを進めています。買い物の合間には NPO のコミュニティサロンでおくつろぎください。

【東京農業大学】

今や東京農業大学は11月初めの収穫祭や地域のお祭りに欠かせない大根踊り、箱根の大学駅伝での活躍を通じて、桜丘の人々にとっても大変親しみのある大学になっています。同校が当時陸軍機甲整備学校の校地であったこの桜丘1丁目(旧世田谷区世田谷4丁目)に校舎を構えたのは戦後間もない昭和20年8月のことでした。しかし農大はそれ以前からの古い歴史を持っています。今回はその歴史をたどってみることにします。



1. 【東京農業大学の創立】

東京農業大学の創設者は明治初年の戊辰戦争で政府軍に対決し、北海道の箱館・五稜郭に拠って戦ったことで有名な榎本武揚です。榎本武揚は明治政府の中でもその優れた行政手腕を買われて大臣を歴任しましたが、教育にも意を注ぎ、明治26年わが国で初の私立農学校である東京農学校を設立しました。その後を引き継いだ明治の農学第1人者であった横井時敬が東京農業大学としての基盤を築いた育ての親でした。当時の学校は今のJR飯田橋駅付近にあり、その後大塚、さらに渋谷の常盤松へと移転しました。



2. 【世田谷との係わり】



大正5年に農業実習地を求めることになり、現在の農大と極めて近い場所に用賀農場を取得し、昭和14年には約10ヘクタール(約3万坪)にまで拡張されました。それ以後昭和35年に厚木新農場が出来るまで、農大生の「土のふるさと」として実習の場を提供してきました。昭和20年5月の米軍による大空襲で常盤松の校舎は焼け跡と化し、終戦とともに新たな再建を図るべく、用賀農場にほど近い陸軍機甲整備学校の跡地を取得し、現在の世田谷キャンパスへと拡充・発展の道をたどることになります。

3. 【収穫祭と大根踊りの起源】

明治40年に第1回の運動会が催され、この時の仮装行列や扮装舞踊が数千の観衆の喝采を博し、以後毎年行われて当時の渋谷界隈の評判となりました。これが後年の農大名物「収穫祭」に継承されたのがそもそもの「大根踊り」始まりで、以来すっかり定着して農大名物になっています。そのほか、マラソンや相撲などの運動部の活躍も有名で、東京農業大学は桜丘に深く根付いた大学になっています。 出典「目で見える東京農大100年」



写真提供 東京農業大学

桜丘歴史写真館の第1回展示が行われました

NPOの今年の新しい企画として桜丘歴史写真館の開設を進めてまいりました。その第1回目が11月12~13日に桜丘区民センター祭りで行われた区民センター祭りで展示されました。本号の東京農大の写真を始め、世田谷区郷土資料館小田急電鉄、馬事公苑、砧公園、また地域の方からの写真提供を受けて、昭和15年頃からの桜丘周辺の歴史的な写真を多くの方に見ていただきました。小田急線の古い駅舎や電車、戦前の馬事公苑の姿、戦後の畑で脱穀する様子、航空写真による地域の建物や自然の移り変わりなどを多くの方が大変興味深く見ておられました。資料をご提供頂いた皆様には心からお礼を申し上げます。これからも、貴重な写真をさらに集めて、いっそう充実した「桜丘歴史写真館」としたいと思っています。古い写真を持ちの方はぜひご提供くださるようお願い致します。



千歳船橋~祖師ヶ谷大蔵

写真提供: 郷土資料館

飯沼 一元氏 (桜丘2丁目在住)

【プロフィール】 白虎隊唯一人の生き残り、飯沼貞吉氏の孫



(Q) 祖父、貞吉氏への思い、影響を受けていること、「白虎隊の会」を立ち上げた動機は何でしょうか？

(A) 飯沼貞吉は戊辰戦争（1868年）で会津白虎隊士の一人として参戦し、会津飯盛山で仲間と共に自刃しました。しかし、偶然救助され蘇生しました。貞吉が満14歳のことでした。貞吉はその後貞雄と改名し、逓信省に勤め、全国の電信・電話の架設に携わり、78歳でその数奇な一生を終えました。私は、貞雄の終焉の地仙台で生まれ育ちました。飯沼家では“死に損ない”と揶揄されることを避け、子供たちをいじめから守るために白虎隊の話はタブーとしました。このため、白虎隊には殆ど関心を持たずに過ごしました10年ほど前から、祖父の生き方に興味を抱くようになり、調査を開始しました。すると、貞吉の生涯については多数の出版物があり、ネット上には史実を勝手に歪曲した異説が氾濫していることがわかりました。



史実解明を進めていくうちに、“ならぬことはならぬ”という会津魂が自分の性格に深く刻み込まれていることをあらためて認識するようになりました。DNAは世代を超えて繋がっていくのですから、考えてみれば当然なのかもしれません。“ならぬことはならぬ”とは、「為さねばならぬ」、「為してはならぬ」という筋を通した生き方、もう少し格好良く表現すれば、“義”に生きるという考え方です。

(Q) 永年勤めた会社から引退した後「㈱ライステック」を起業されたのは？

(A) 定年からの20~30年をどのように生きるかは、人生の重要テーマです。「為さねばならぬ」ことは沢山ありますが、「健康」をテーマにした新事業に挑戦することにしました。わが国の国民医療費は介護保険を含めると44兆円、税収は40兆円です。こんな国はやがて潰れます。この問題を解決するために一番良い方法は、皆が健康に生きることです。日本人のDNAは“米”でできています。祖先は玄米を食べていましたが、今は白米を食べるようになりました。つまり、“糠（ぬか）”を食べなくなったのです。ここに、生活習慣病が蔓延する原因があります。白米は「粕（かす）」、糠は健康の素なのです。そこで、「米ぬかを食卓へ」を合言葉にベンチャーを起業しました。

(Q) 東日本大震災に際し、勉学を志す若者への支援と復興の事業支援を目的とする「海の会」を設立されましたが？

(A) 会津藩は敗戦後、土地、地位、モノのすべてを剥奪され、“国賊”の汚名を着せられ、厳寒不毛の下北半島に集団流罪となりました。その時、彼らが為したことは、「若者の教育」でした。未来を彼らに託したのです。貞吉もその一人でした。そして、逆境を乗り越えて、祖国に貢献しました。東京でできること、「為さねばならぬ」こと、残り少ない人生を有意義に燃焼させること、これらが、「海の会」設立の動機です。奨学生の第1号は仙台で父親を失った高校三年生で、来春上京して大学進学します。彼が“逆境”を乗り越えて成長し、やがて東北の復興に携わるようになる・・・という夢を追うのは、男のロマンそのものです。

(Q) 桜丘とのかかわりは？桜丘の住み心地はいかがですか？

(A) ここに棲みついて43年。仙台に住んでいた頃、「東京砂漠」という歌がはやりましたが、ここは東京の「オアシス」です。街づくりにかかわる皆さんの努力があってこそ、住み心地は良くなるものだと思います。

NPO 世田谷桜丘まちづくり活動と今後の予定】

11月22日（火）ベルリンフィル・トリオコンサートが開催されました。素晴らしい演奏に会場と一体となったコンサートに、演奏者からも最高のコンサートであったというコメントもいただきました。詳細は次号で紹介します。



12月23日（金・祝日）桜丘まちづくり音楽祭 クリスマスオペラ「くるみ割り人形」そのほか商店街を飾るペナントギャラリーなど色々な催しが予定されています。

【第12回ウォーキングラリー開催】

10月30日、あいにく小雨模様の天気と近隣での催し物が重なって、当日になってのキャンセルも4組ほどあり、参加者はいつもより少ない21チーム(65人)でした。それでも、友達同士や家族などの仲間で1時半に集合場所の笹原小学校を出発、野菜農園や飾り物のある個人の邸宅などを見ながら、宇山神社へ。神社や久



成院の由来などの問題に挑戦、さらに桜丘すみれば自然庭園では動物、植物に関する問題を解き、再び笹原小学校に戻る1時間半ほどのコースを歩いて、合計30問の出題に回答してもらいました。

新しい趣向としては、コース全体の中にあるお医者さんや、消火器、生産緑地のマーク、災害時の一時集合場所などの数を当てる数当てゲームや解説を聞きながら自分で採点する自己採点方式を採用しました。また問題はすみれば公園や野菜農園の方、そして地域にお住まいの方や笹原小学校の先生にも出題をして頂きバラティに富んだ問題づくりが大変好評でした。このように問題解きを楽しみながら最後に賞品を貰ってチームで分け合う姿に子どもたちが大いに喜んでくれたラリーでした。

【11月5日(土) 古布・古着の回収】

今年2回目の回収がいつもの桜丘小学校南側、笹原小学校東側、宇山神社下の3か所で行われました。

今回からバッグや靴も回収できるようになり、11月の回収としては過去最高に近い9,280kgになりました。場所別では次の通りです。

桜丘小学校 4,170kg、笹原小学校 2,210kg、宇山神社 2,900kgでした。
いつもご協力頂き有難うございます。



【理事長交代のお知らせ】

6月20日に開催された臨時理事会にて荒井芳夫に代わり伊藤和彦が新しい理事長に選任されました。前任の荒井氏は当NPOが設立された平成17年7月から理事長を務めて、イベントの活発化や事業の多角化を図り、また財政面での基盤作りにも大いに尽力されました。今後ともさらに豊かなまちづくりを進めて参りますので、いっそうのご支援をお願い致します。

NPO 世田谷桜丘まちづくりを支援していただいている賛助会員の皆様(敬称略)

桜丘地域に事業所があり、私たちの活動に賛同し日常の活動やイベントなどにご協力頂いています。

- | | | |
|-------------------|----------|-------------|
| ☆ 世田谷信用金庫船橋支店 | ☆ 水道機工㈱ | ☆ ㈱ライステック |
| ☆ ミサワホーム東京㈱ 世田谷支店 | ☆ 保田医院 | ☆ 伊藤内科胃腸科 |
| ☆ 東京土建組合けやき分会 | ☆ VIC進学院 | ☆ 美容室ビューロード |

「NPO 世田谷桜丘まちづくり」の会員を募集しています。

次の世代を担う子供たちの育成・地域環境整備を目的に、音楽会、まちづくり祭り、古着・古布回収、ペットボトルキャップ回収、ウォーキングラリー、助け合い隊などの活動を通じてより良い街づくりを目指しています。

退職した方で、地元のまちづくり活動に貢献していただける方、子育てを卒業して地域の子供たちを育てる、高齢者の支援など、楽しみながらご協力していただける方をお待ちしています。

稲荷神社前のコミュニティステーションまでお申し込みください。お気軽にお立ち寄りください。

会費 : 個人会員 1年間 3000円(月当たり300円) 賛助会員 1年間・一口 5000円